

租税教育実践レポート

私たちの生活と財政

登米市立新田中学校教諭 3学年 清水 裕治

実施年月日：令和6年1月31日 20名

1 実践計画・指導のねらい

公共施設や公共サービスを考えることで、税金の目的や必要性を認識し、税金がなければ我々の生活は成り立たないことに気づかせたい。所得の種類によって異なる課税の方法を検討することで、公平な課税の方法とその課題について考えてさせる。所得税については累進課税制度があることや、他にも様々な課税の方法があり、複数の税金をうまく組み合わせることによって全体での公平性を確保しているということを理解させたい。また、グループで税額を決める議論を通じて、自分たちの支払う税金が国会での議論によって決められているということを体感させたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・年収の多い人は税金も多いことを確認する	○ 年収が一番多いプロスポーツ選手は、いくらくらいもらっていると思いますか。またその人たちは、税金はいくらくらい払っていると思いますか。MLBの大谷翔平選手や、有名スポーツ選手、芸能人などの推定年収と税金がどのくらいだと思いますか。 ● 年収の多いプロスポーツ選手は多額の税金を支払っている。 □ 教科書「新しい公民」、年収ランキング表
2	・より良い税金の集め方について考える	○ 1班5人のメンバーで、課税所得100万円が1人、300万円が2人、1,000万円が1人の3パターンに分けて合計350万円の税を集める場合にどのように集めるかを班毎に話し合う。 ● 年収100万円の人は5%、300万円の人は15%、1,000万円の人は20%割合で集めるのが公平だ。 □ 教科書「新しい公民」
3	・累進課税について理解する	○ どのような形が理想的でしょうか。 ● 同じ額、同じ税率、収入に合わせて税率を変える □ 教科書「新しい公民」

【指導のポイント】≪1時間目≫

高額納税者による社会貢献等についても触れる。

【指導のポイント】≪2時間目≫

低所得者の税負担について考えさせ、既習事項である効率と公正、決まりの評価を考え、立場を買えても受け入れられるものになっている。

【指導のポイント】≪3時間目≫

同額の税金を課す公平な税負担と、税の逆進性について説明し、全体の公平性を確保しようとしていることを確認する。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ さまざまな収入の人の立場から、主体的に話し合いに参加し、良い形を模索することができた。
- ◎ 現代社会の見方や考え方、民主政治などの主権者教育、この後の経済の学習などを関連付けた系統的な学習ができた。
- ◆ 班での話し合い活動では、教科書の資料などもあり、初めから税率で考える班が多かった。